

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100068		
法人名	聖徳福祉会		
事業所名	ひさご苑 1階		
所在地	島根県松江市浜佐田町125		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町村受理日	平成23年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社社応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2 相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を豊かな自然に囲まれ四季の移り変わりも感じられ、隣接する保育園からは元気に遊ぶ子供たちの姿を目にすることができます。誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス会など園児との交流も積極的に行っており、利用者の方からも喜んで頂いています。少しでも利用者の方の笑顔がみられる様に職員が頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地の保育所と同じ敷地にあるグループホームでは、同じ建物に乳児保育所が併設されており、毎日幼児のかわいい笑顔と触れることができます。保育園児と一緒に野菜を収穫したり、行事と一緒に開催し、心とまぜながら交流を楽しんでいます。
2階をぐるっと囲むバルコニーがあり、テーブルとイスが置かれ、天気の良い日は日光浴をし、景色を楽しみながら気分転換を図っている。
管理者と職員は排泄支援に力を入れており、一人ひとりの排泄パターンの把握はもちろん、行動・様子に注意を払いトイレで排泄出来る様取り組んでいる。職員の移動もあり、22年4月から新体制でスタートしたばかりである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりがあり、理念についての理解も薄れてきているが、職員不足の上、日々の業務が忙しく特に話し合う機会を設けていない	玄関と詰め所など職員が目につくところに理念が掲示されているが、介護現場において実践化されにくい	理念の中の思いを職員間で共有し、実践に取り組むよう意識の向上に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の回覧板に苑の会報を入れていただき、苑を知っていただくよう努めている。2ヶ月に一回、法人の行事に地域の人を招いて話す機会を設けている。	公民館や自治会とつながりを持つため挨拶に行ったり、会報を作成し働きかけを行っている。	自治会長・民生委員と連絡を密に取り、地域の活動や苑の行事に積極的に参加を呼びかけ交流を深めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として実習生や職場体験の受け入れは行っているが、地域の人々に向けて認知症ケアの啓発はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議での意見を検討しサービス向上に活かしている。	運営推進会議では利用者の様子や行事を議題にあげ、参加者に意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の実地指導を受け、改善するように努めている。	行政の実地指導や運営推進会議の時などに現状を話し、指導や助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒されるおそれのある利用者のご家族と相談し、了承の元、一時的ベッド柵をすることがある。	身体拘束をしないケアを心がけている。家族の希望で止むを得ず行う場合もあるが、最小限の拘束に抑え、家族には状況報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に行った職員に説明を受け、知識の共有に努めている。事業所内で虐待が見過ごされない様、注意をはらい防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースが現在ないため、他の職員は理解していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入退居、重度化、改定を含め十分な説明を行い、理解、納得をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、手紙や訪問時に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している	毎月苑での生活の様子を知らせる手紙を作成し、送っている。意見があった時には申し送り時や連絡ノートで共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	退職金をつけてもらえるよう嘆願すると、退職金共済に加入してくれた。	職員と施設長は気軽に意見が言える関係であるが、職員の人員不足により、施設長が改めて直接意見を聞く時間などは設けていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新たに退職金共済に加入することにより、職員が長く働く気持ちになれるよう改善した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく職員が受講できる様にしている。研修報告書を職員に閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できるだけグループホーム部会に参加するようには努めてはいるが、職員が不足しており参加できないときもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会って心身の状態や本人の思いに耳を傾ける様にして安心感を得られる様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況、要望などをゆっくり聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に職員が利用者、家族に面接し本人や家族の思い、状況などを確認し必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができる様に、場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、家族の思いにも耳を傾け本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう面会などを依頼している。	以前住んでいた家の近くまで車でドライブに行ったり、家族に外泊をお願いして馴染みの場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、心身の状態等を把握し職員が情報共有するようにして、利用者同士の関係が、うまくいくように職員がいろいろな場面、活動を通して調整役となって支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、情報提供を行ったり、訪問したりしてリロケーションダメージを最小限にしている。ご家族にも電話で様子を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から暮らし方の希望、意向を確認している。日々の関わりの中でも、把握に努めている。	日々の会話の中でのなにげなく出た思いをくみ取るようにしている。犬が好きな人には買い物の時にペットショップと一緒に覗くようにしている。	個人の希望を尊重し、その人らしい生活が送れるよう本人の思いに関心を寄せる取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートに入所時に記入してもらっているがご家族、親戚の方からも暮らしぶりについて聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズム、心身の状態、有する力など行動等から把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させる様にしている。	家族から伺った要望をもとに担当がケアプランを作成している。モニタリングのときに他の職員に意見を聞くようにしているが特定の人意見に偏りがちである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、記録に記載し、職員間の情報共有をはかり、介護計画の見直し、評価を実施して。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院等の支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて移動図書館の利用や訪問理美容サービス、近所での買い物などを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。通院は基本的には家族であるが、急変時や状況によっては職員が付き添っている。	受診は家族にお願いし、かかりつけ医も家族と本人が希望するかかりつけ医となっている。受診結果を家族から伺い連絡ノートで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員のほか、月一回の訪問看護契約を結び、本人の体調の変化に応じて状態を報告、相談し適切な医療につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に対して本人に関する情報を提供し、職員が見舞うようにしている。家族回復状況など情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方に事業所でできる事を説明しており、ご本人の状態を見ながらご家族や主治医と相談し、対応している。	入居時にできることとできないことを伝えている。現在重度化や終末期に向けて具体的に対応すべき人はいないこともあり、方針の統一は図られていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備しており、緊急時には、かかりつけ医など医療機関への連絡、報告をして指示を仰ぎ連絡網を通して職員間でも連絡を取り合い速やかに対応している。応急手当能力には不安が残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	避難訓練を年2回行っている。AEDを使った心肺蘇生の訓練を隣接する保育所と合同で行っている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、その人の人格を損なわない様、その人の気持ちを尊重し介助することを心がけている	広報に載せる写真は家族に確認をしてから選んでいる。プライバシーの配慮については守秘義務の大切さを職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の希望、関心、好嗜を見極め、それをレクリエーションや日常生活に活かすよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しているつもりはないが職員がレクなど声をかけないと各自居室にこもりがちなる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で化粧される方もおられ、一緒に化粧品を買いに行ったり、職員が買ってきたりすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁が使える方は食材の皮むきや切っていたり、簡単な加熱調理などもしていたりしている。食事中は同席に座り、話をしながら楽しく食事ができるようにしている。	おはぎや七草粥など季節を感じてもらえるものを献立に入れるようにしている。暖かい季節にはお弁当の日を設け、庭やテラスで食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分・食事摂取量を記録している。又、入浴後は必ず水分補給をしていただく。食事は個々の嗜好や状態を考慮し食べやすいように形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて毎食後洗面所で歯磨きやうがいをしていただいたり、自分でできない方はスポンジブラシを使用して口腔のマッサージを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見計らって誘導している。トイレでの排泄を尊重し、紙パンツ・パット類等もご本人に合っているか職員間で情報交換検討している	リハビリパンツやパットなどその人にあったものを家族と相談しながら決めている。排泄チェック表・水分チェック表を活用しながらトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分摂取表を記録し十分な水分補給を提供している。又、牛乳・ヨーグルト等も工夫し、毎日の間食に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は定めているが利用者のその日の気分や体調に合わせて入っていただいている。	全員が同じ頻度で入浴できるように目安となる入浴日を決めているが、その日の気分や体調を考慮し、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スペースを尊重しながら、体調、希望等に考慮し、なるべく日中の活動を高めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピー・効能・副作用の説明等、ケース毎ファイルに保管し、全職員に分かるようにしている。処方用量変更時はケース記録や連絡ノートに記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の皮むき、洗濯干し・畳み、掃除等得意分野での力を発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方の状況、その日のスタッフの人数等も考慮し、近くのスーパー、喫茶店、お祭り等なるべく外出するよう努めている。	買い物や散歩など天気がよければなるべく外出するよう努めている。誕生日の時には希望を聞き、ファミリーレストランや喫茶店と一緒に出かける。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望で少額のお金を持っている人もいます。プライバシーを侵害するという理由から所持金の管理は行っていないが、ご家族からは了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が家から花を持ってきたりして食堂に飾り、季節の移り変わりを感じていただけるよう努めている。	クリスマスやお正月飾り・お雛様など季節を感じてもらえるものを飾るように心がけている。入居者の笑顔の写真が掲示しており和やかな雰囲気が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の日当たりの良い所に椅子を置き、一人になれる場所がある。利用者同士の間関係に気を遣い、席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具(ベッド、タンス、テレビなど)を持ち込んでいただいている。又、ご家族などの写真を飾り、温かい雰囲気が出せるように努めている。	馴染みのタンスやこたつ・ベット・昔の写真など持ち込みなじみのものが生かされている。配置は家族と本人に任せ自由に過ごしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、物の配置に配慮したり、混乱されないよう必要な目印をつけたりして環境面で工夫している。		